



発行人 福島県教職員組合
発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141
〔定価一部 20円〕
編集・責任者 瀬戸 禎子
e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
http://www.f-t-u.or.jp
(この購読料は組合費に含まれています。)

ろうぎんのキャッシュカードなら
ATMお引き出し手数料が
実質 0円
ご利用手数料はいったんご負担いた
だく場合がありますが、即時キャッ
シュバックいたします。
東北労働金庫

県人事委員会勧告完全実施！ 学校の多忙化と人員不足に歯止めを！

11月7日、県教育委員会との1回目の交渉が行われました。瀬戸委員長のあいさつの後、伊藤政策監から県教組の要求書に対する一括回答がありました。私たちの給料に関しては、以下の通りです。

また、人員不足の深刻な問題について、現場からの声をぶつけました。「人がいない」→「学校が忙しくなる」→「病気の人が増える」→「病休者が出る」→「補充者がいない」というマイナスのスパイラル状態の学校。そのような環境の職場で働こうという若者も退職した教職員もいないのは当然。まずは、労働環境を「だれもが働きやすい職場」にする必要があると、強く訴えました。

部活動の地域移行については、35の市町村で、進んでいない状況が県教委から報告されました。健康教育課とは、2025年度までに県内すべての市町村で地域移行を進めることを確認しました。



◆県人事委員会勧告通り実施、月給やボーナスが引上げに！

- ① 民間の支給割合との均衡を図るため、ボーナスを年間で0.15月分引き上げ
〔期末手当に0.05月、勤勉手当に0.10月分ずつ配分〕
 - ② 若年層を重点に、全年齢層での月例給の引き上げ
〔高卒初任給+23,600円など、大卒初任給+23,200円の引き上げなど
平均+10,334円(+2.80%)の引き上げ〕
- * ボーナスは12月分から、月給は4月まで遡って実施。どちらも、差額で支給される予定。



11月18日に行われた確定交渉については、次号でお知らせします。



第265回 定期中央委員会 開催！

10月20日、第265回中央委員会が行われました。各支部から中央委員が結集し、質疑・討論が行われました。中教審答申の問題点や青年部活動の成果と今後の計画など5本の質疑がありました。

討論については、「組織強化・拡大」「長時間労働是正・働き方改革」「平和・人権・環境」の3つの柱で行われました。「支部専門部活動が活発になってきている。交流することが組織の強化につながっている。世代交代の課題はある。」

「小さな支部でも、オルガナイザーの力をかりて支部活動を進めている。コミュニケーションスキルについての学習会を継続して実施している。」等、15本の討論がありました。



【議案へ追加】 9ページの方針(7)の後に追加

- (8) ICT・DXの公教育への過度な導入に反対。また、ICT支援員配置の拡充を求める取り組みを進める。

2024秋闘勝利 諸要求貫徹 10.29 県教組総決起集会 公務職場で働く仲間の切実な願いと要求を実現しよう！

10月29日、県庁前広場において福島県公務員労働組合共闘会議に加盟する単産・単組の仲間360人が結集し、「2024秋季確定闘争勝利！福島県公務員共闘総決起集会」が行われました。県庁前で集会が開催されたのは6年ぶり。秋季確定闘争に勝利するために連帯して行動することが確認されました。その後、交渉団は副知事交渉に参加し、参加者は市内をデモ行進し、多くの市民にアピールしました。副知事交渉の中で、県独自施策である、30人学級、33人程度学級が維持できない状況であり、教職員にも子どもたちにも様々な影響が出ていることを強く訴えてきました。



県教組は、秋闘の最重要課題として、教職員の長時間労働解消の実現と教職員不足解消に向けて、11月7日の第2波と11月18日の第3波に行われる県教委交渉にも全力で臨みました。

2024年度目教組平和集会 福島で開催！

福島県楡葉町Jヴィレッジに全国から120人の仲間が集まり、学習と交流を深めました。1日めは、「『戦争ができる国づくり』に関する問題」「核と人権に関する問題」「戦後補償や国際連帯のとりのくみ」「平和をすすめる運動・教育」の4つの分科会が行われ、それぞれのテーマについて活発な議論がなされました。

2日めには、双葉地区のフィールドワークを行いました。津波で倒壊し、常磐線開通に合わせ新築された富岡駅舎、大熊町の「学び舎ゆめの森」の立派な校舎、帰還困難地域の廃屋、そして東日本大震災・原発事故伝承館見学をしました。13年半経過した原発事故後の福島の現状について、直接見たことを自分の地域で発信していただきたいと結びました。



双葉地区の現状報告

【第1分科会】

神奈川からは、米軍基地が点在し、米軍機の爆音・墜落の危険にさらされている現状や、子どもたちへ「基地をどう教えるのか」に対し、基地内の学校との交流を通して考えさせる実践の報告がありました。

沖縄からの「黙っているのも気づかないのも加害者の側、意見を主張すること、戦争の準備より平和の準備を」「関心を持ち、学び・考え・行動することの継続を」の言葉が心に響きました。

【第2分科会】

北海道から、原発の廃棄物の最終処分場の候補となった寿都町、神恵内村の現状について、被爆二世教職員の会からは、現在の裁判闘争の状況について報告がありました。

多額の原発マネーが投じられる自治体とその周辺の自治体の温度差。何かあってからでは遅い、ということをも人事とせず訴えていくことが大切だということを感じました。

【第3分科会】

「仙台の軍事産業～学都と軍都のはざままで～」の題で、宮城高校教育ネットワークユニオンから発表がありました。また長崎県被爆二世教職員の会からは、長崎に原爆が投下された後の被爆者救済の歴史が報告されました。

2つのレポートは、福島の原発災害後の姿と何かしら通ずるものがある気がしました。現在、復興のためにと多くの企業や研究施設などが誘致されています。こういった企業・施設なのか、ほんとうに住民・県民・国民のためになる施設なのか。わたしたちもアンテナを高くする必要があります。福島を風化させないことは、戦争を風化させないことと同じなのだと思えます。



【第4分科会】

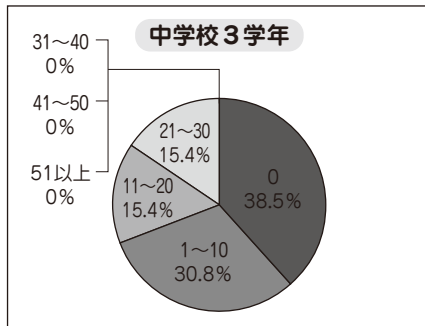
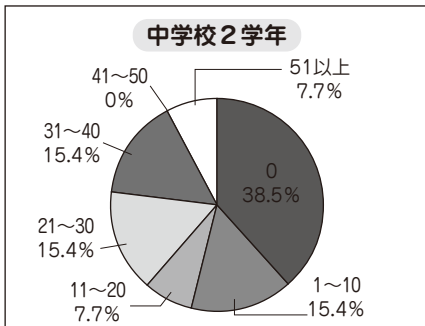
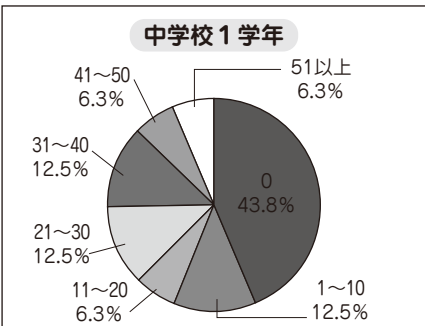
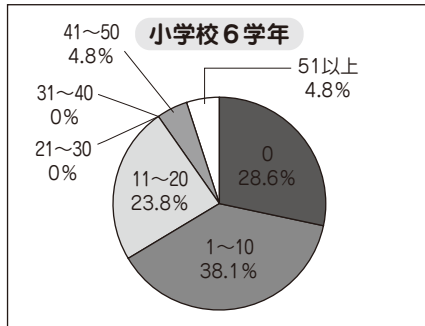
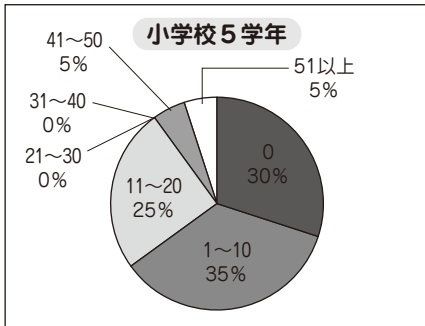
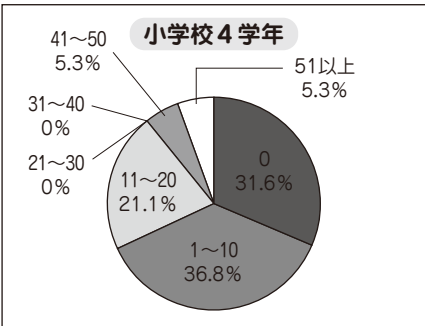
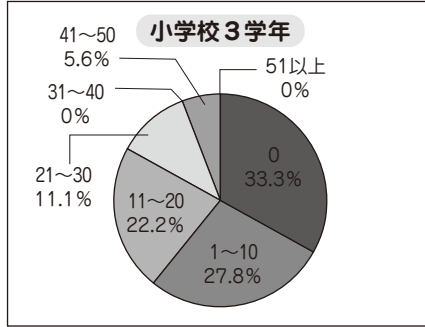
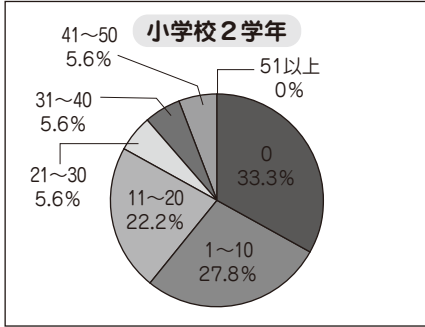
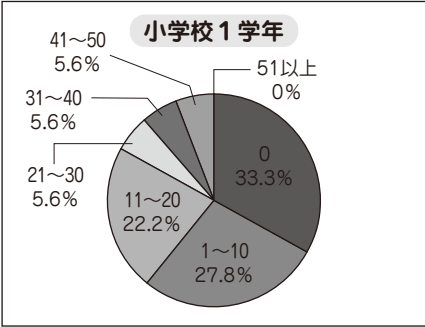
愛知からは県内の教職員の戦争体験をまとめた書籍をもとにした平和教育実践についてです。戦争を知識としては知っている子ども達に、いかに自分ごととして捉えさせるかは難しいところですが、具体的な体験に触れ、感想などを共有する中で反戦・平和への想いを新たにする実践の報告から、自分ができること、組合ができることを考えるきっかけになりました。

また、大阪からは修学旅行における学びを発展させる実践の報告、富山からは若い世代への活動の継承について報告がありました。子どもの頃から学習の機会を持つことの大切さなどが挙げられ、これからの可能性を感じるとともにこれからの取り組みに活かして行こうと思いました。

県教組教育新聞10月号「ミニアンケート」結果

前回のテーマ～「余剰時数」現状とみなさんの考えは？～

今回も多くの方にご協力いただきました。ありがとうございました。余剰時数ゼロで教育課程を編成している地区も複数ありましたが、余剰時数のあり方に関しては、さまざまご意見をいただきました。



- 余剰は0でよい。教科時数でカウントできないものは欠課にするか、実施しないなどの検討が必要。「朝の時間などを使ったアンケート回答」「鼓笛練習」「ホールボディカウンター」など実質授業をつぶすものをなくしてほしい。地教委単位で、授業を潰してしまうものをカットしてほしい。
- 標準時数は標準であり状況によって少なくなることを前提とする認識を国の中で共有したい。時数が不足しそうな時、午前中に5校時実施などで確保しようとするこもやめさせましょう。本校では、余剰削減を行い、5校時で切り上げて帰る日が増えるなど、余裕を持たせることができた。
- 特別支援学校なので、自立活動を70時間設定。(標準時数より50時間多くとり、20時間は技能教科で調整)そのため余剰時数はありません。来年度は、予定されている交流会などは学校行事にすることにしました。余剰がないため、下校時間が早くなり、教員、子どもともに負担が軽くなったと思います。
- 年間10時間程度とっておいて、3月に調整して0にすればよい。本校も中学3年生が卒業したあとで、中学1・2年生の授業を可能な限りカットして結果的に余剰を減らしています。
- 必要最小限の5時間程度でよいと思う。自然災害等で休校になったときに授業を増やすなどの対策をすればよい。過去に余剰が多すぎて、6校時が多く、辛かった。
- できる限り0に近づけていますが、そもそも標準時数が多いです。
- 余剰時数は、教科書を終えたり練習時間を確保したりするためにはある程度必要な場合もあるので、授業の内容削減とセットで考えるべき物だと思います。

ご協力ありがとうございました



